

郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史まんぼ

— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 —

第1回 志木の田子山富士塚
(国指定重要有形民俗文化財)

▲田子山富士保存会を中心とした地域の皆さんの活動により、現在のように、誰もが田子山富士塚の魅力に直接、触れられるようになりました。

明治5年(1872)に築造された高さ約8.7メートル、直径約30メートルの富士塚です。地元の醤油醸造業者であった高須庄吉が中心となり、新河岸川舟運で栄えた引又河岸の舟運関係者や地元の商人、職人、農民など地域内外の多くの人々の協力を得て築造されました。

入口の浅間神社下社から頂上の奥宮までの間に、合目石や烏帽子磐碑、小御岳神社など113件もの石造物が設置されています。

また、北側斜面には黒ボク(富士山溶岩)が美しく配置されているほか、御胎内と呼ばれる洞穴も残っており、山頂からは富士山を眺めることができます。富士信仰は現在も生きており、毎年7月には山開きが、8月には山仕舞いの行事などが行われています。

令和2年3月、文部科学大臣より「志木の田子山富士塚」として、志木市では初となる国重要有形民俗文化財に指定されました。



所在地／本町2-9(敷島神社境内)
志木駅より徒歩25分
志木駅東口よりバスで「富士道」下車、徒歩5分
※公開日(登山日)は、今月号の16ページをご覧ください。



いきいき元気～ご長寿を祝って～

先月、9月21日は敬老の日。

敬老の日は、今から73年前の昭和22年に、兵庫県多可郡野間谷村(現在の多可町)で「老人を大切にし、お年寄りの力を借りて村づくりをしよう」と55歳以上の方を招待し、敬老会を開いたのがはじまりと言われています。当時の平均寿命は、男性が50.06歳、女性が53.96歳でしたので、55歳はかなりのご長寿であったことがわかります。その後は、生活環境の向上や医療の進歩などにより、平均寿命は伸び続け、令和元年は、男性81.41歳、女性87.45歳といずれも過去最高を更新しました。

志木市においても、65歳健康寿命は、男女ともに埼玉県内で上位に位置しており、要介護認定率も、15.1%と近隣市と比較して低い状況にあります。また、今年度は、新たに12の方が百寿を迎え、市内の百歳を超える方は37人となり、最高齢の方は106歳です。市制を施行した50年前、100歳以上の方はゼロであったことを考えると、元気な志木市の今を感じることができます。

志木市では、人生の先輩方が、いつまでもいきいきと暮らせるまちづくりに力を入れています。特に、健康寿命延伸に向けた取組として実施している「健康寿命のばしマッスルプロジェクト(いろは健康ポイント事業)」は、埼玉県の令和2年度健康長寿優秀市町村表彰において、5年連続で表彰されるとともに、新たに「市民力連携による健康寿命延伸プロジェクト」が(公財)日本国際交流センター主催のアジア健康長寿イノベーション賞のコミュニティ部門で優秀事例の1つに選ばれました。これらの賞を励みとし、引き続き、健康寿命日本一を目指し、元気あふれるまちにしていきたいと考えています。

一方で、新型コロナウイルス感染症の終息がまだに見通せない状況にあり、皆さまの元気をつくっていくことは大きな課題となっています。「少しでも不安や負担を軽減したい」との思いから、今年度は、「ご長寿応援買物券」を増額して配布しますので、ぜひご活用ください。また、外出の自粛により、身体機能や認知機能の低下も懸念されることから、自宅でできる簡単な体操を広報しき5月号や市ホームページで紹介しておりますので、取り組んでみてください。

コロナ禍は、人間の気力、体力そして地域力など、さまざまなパワーを奪い取ろうとしています。志木市では、37人が100歳を超えるという力強い現実を前に、改めて、正しく新型コロナウイルス感染症と向き合い、工夫を凝らし、知恵を出しながら、市民の皆さまの元気を取り戻す決意です。